
幻想を操る者 ~ 地獄先生が住む町 ~

六道輪廻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻想を操る者 ー地獄先生が住む町ー

【Nコード】

N2509T

【作者名】

六道輪廻

【あらすじ】

零があゝの先生がいる所に言ったらという話

世界を移動している零は見知らぬ町についた…そこには地獄先生と呼ばれる先生がいる町 零は此処でどんなことをするのかそれは本人にしかわからない

プロローグ（前書き）

やっちまた感バリバリの作品ですが呼んでくれると嬉しいです

地獄先生ぬ〜べ〜特別編始まるよ!!!

プロローグ

此処は童守小学校：此処には霊能力と言う力、霊能力者と呼ばれる先生がいた。

彼の名は鶴野鳴介ぬえのめいすけ左手に鬼の力：通称 鬼の手 を持つ者だ

（鶴野鳴介（ぬ〜べ〜） side）

ぬ〜べ〜「兎に角！老人に優しくするのはいいが今後こういった物をねだる様な真似はやめ〜い！！」

美樹「は〜い…（まあいいわ！これで老人たちを誑し込むやり方がわかったし！）ぐふふふ…」

ぬ〜べ〜「まったく…あ！これは読者のみなさん！俺は鶴野鳴介！通称

地獄先生ぬ〜べ〜と呼ばれている！気軽にぬ〜べ〜と呼んでくれ！」

？「ぬ〜べ〜…誰に話しているの？空に向かって…」

？「大方道で何か拾って食ったんだろ？ぬ〜べ〜貧乏だからさ！」

ぬ「煩い！！あ！生徒の自己紹介だな、ツインテールのおさげの女の子が稲葉郷子いなはきょうこ元気がいいが短期なのが玉にきずかな？

そっちの短髪の男の子が立野広たてのひろしだ！運動は得意だがやはり頭は悪い…いつも0点取りやがって…ぶつぶつ…最後に細川美樹ほそかわ みき問題児以上！…ほかにも生徒はいるがそれはあとでね〜」

郷子「大丈夫かしら…ぬ〜べ〜…」

広「ほつとけ…それよりぬ〜べ〜！帰ろっぜ！」

ぬ「おお！よし帰るか！…ん！？」

美樹「どうしたの？ぬ〜べ〜？」

ぬ「妖気…しかもこれは…鬼の気だと…！」

「「「鬼…！」」」

郷子「ぬ〜べ〜！」

ぬ「この方角…学校か！みんなが危ない！！急げ！戻るぞ！！」

「「「うん…！」」」

ぬ「（確かに鬼の気も感じるが…なぜだ？妖気が混ざっている？）

「ぬ〜べ〜sideアウト」

ぬ〜べ〜達が堂守小学校に向かう前の出来事

「side」

零「ここは？公園…今度はどこの世界だ？ジャンヌはなのは達の

所に置いてきたし…どうすっかな？…ん？」

零があたりを見回すとそこには見慣れた本があった

白姫がいつも置いてくれる本だ、この世界のことを少し書いているので正直ありがたい

零「さて…ふむ？」

〽零へ〽

零「ここは堂守町といわれるところです

此処には地獄先生といわれる霊能力者が住んでいる町です。

その方は妖怪や人を救っている人です。あなたと同じですね

戸籍とかは用意しているのでそこであなたはその先生と一緒に先生をきなさい…嫌とは言わせません！それでは〽

白姫より

零「マジで？…とりあえず学校行くか…」

零はあっちか？と言いながら進むのであった

めんどくさいことになるのを知らずに

〽堂守小学校〽

零「ここが…俺の職場…教師って…憂鬱だな〜」

何もなければいいが…にしても此処…磁場が強い、墓の上にも

立てたか？そうじゃなければこんなにならないぞ？ふつつ

校長「おお！君が新しい先生の神凧零君じゃな？」

零「はい…校長先生！よろしくお願いします」

校長「うむ！君の受け持つクラスは五年三組じゃ…ま！副担任だけど」

零「そうですか…所で担任の先生は？（ん？霊力を感じる…！それに鬼の力も）」

校長「それはそろそろ…お！来たのう。？なんであんなに急いでるんじゃ？」

ぬ「はあはあ…！お前か！この妖力は」

零「…（左手に手袋…あれから鬼を感じる…封印しているようだな）」

ぬ「答える！左手の鬼の封印を解きに来たのか…それとも生徒に手を出しに来たのか！」

零「…いい目をしている…自分が犠牲になっても生徒を守り通す覚悟か…凄いな」

校長「なんだかわからんが…鶴野君の所の新しい副担任じゃよ」

ぬ「なあ！聞いてませんよ！校長先生！」

校長「君がいつも道理会議で寝ていたからじゃ…後は任せたよ！」

スタスタスタ…

校長は学校の中に戻り此処にいるのはぬぐべくと生徒それに零だけだ

ぬ「何が目的だ…」

零「強いて言えば…先生かな？人でありながら妖怪も守る対象に入っていると聞いたので…」

ぬ「それがどうした…言え！生徒が目的なのか！お前から鬼の力を感じるんだぞ…！」

零「！驚いた…炎鬼と雷鬼の力を感じるとは…その左手の鬼か？
だけど俺がどんな奴か知らないようだな…」

ぬ「なに？妖怪なのか？」

零「そうさ…俺は神凧零…魑魅魍魎の主、ぬらりひよんだ」

此処に本来会うはずの無かった二人が出会った

この物語は一体何処に進むのだろうか…それは誰にもわからない

ただし…正史から離れた物語になるのは間違えなかった

プロローグ（後書き）

六「書いてしまった…疲れた」

零「お疲れ…眠いな」

六「ああ…だからもう寝る…お休み」

零「…まったく…次回は自己紹介…よろしく…ふあ、俺も寝よ」

自己紹介（前書き）

今回は簡単な自己紹介のみなので短いです！

自己紹介

前回の話

零が来た世界は地獄先生ぬ〜べ〜がいる世界

そこで零は本来の主人公である鵜野鳴介に会ったのだった

（零side）

ぬ「ぬらりひよんだと?...どこからどう見ても人じゃないか...」

広「あっははは!!ぬらりひよんだって!俺たちさっき見たけど神棚に祭っている妖怪だったぜ!」

郷子「そうよ!神様でも無銭飲食するくらいの妖怪がぬ〜べ〜に勝てるわけ!」

ぬ「(いや...確かぬらりひよんのもう一つの呼び名は...!魑魅魍魎の主!初めて見るぞ!若いぬらりひよんは!!)」

美樹「ねえ〜え…お兄様〜美樹とどこかに行きましょう?」

郷子「こら美樹! あんたまだ懲りてないわねえ〜(。・。・メ)」

零「…餓鬼ども…ぬらりひよんの本当の呼び名を知らないな?」

広「へん! コソ泥妖怪ぬらりひよんか? お笑い草だぜ!」

オオオオオオオオオオ

広がそう言った瞬間零から濃密な妖気が周りに漂っていく

人には何か寒気と得体のしれない何か突き抜ける感覚に陥っていく

ぬ〜べ〜と零以外の生徒は震えていた

広「な…何だ? この寒気は?」

郷子「広…不味い事したんじゃない?」

ぬ「ぬらりひよんは…殆どあの老人の姿で現れるが…若い時の姿はすべての妖怪の上に立つものといわれる…老人の姿が多いのは裏

の世界から一切出ないからだ…」

「「「！」「」」

広「じゃ…じゃああいつはぬ〜べ〜より…」

ぬ「ああ…俺より遙かに強い…広！郷子！美樹！逃げる！此奴の狙いは！」「まあ…待て！」「！！」

零はぬ〜べ〜にそういうと妖気を出すのをやめ…話を聞いてくれと頼むのであった

〜零説明中〜

ぬ「じゃあ…生徒を襲うためじゃなくてその土地神に先生をやつて来いと命令された？」

零「そうだ！まったく妖怪である俺を先生などとは…何を考えているのだ…あいつ」

ぬ「俺の早とちりかよかった…あの時はほんとに死ぬかと思っ
た…」

零「俺が無害の人を襲うわけないだろ？しかも子供だ…俺だって
もとは人間だしな」

郷子「え！零先生って人間なの！？」

零「元な…というより父が妖怪、母が人間で俺が半妖だったんだ
が…ある出来事で完全な妖怪になったわけさ…」

ぬ「そうだったのか…（ん？これはゆきめ君が聞いたらますます
離れなくなるぞ！）」

広「半妖ということは人間と妖怪が結婚したから…ぬべー！ゆ
きめさんと！」

広が何か言う前にぬべーが口をふさいで言えなくしたが…零に
は聞こえていたのであまり意味がない

というかぬべーそろそろ話さないと広の顔が赤から青に変わっ
てきているぞ…

広「!!!ぶっはっあ!!!殺す気か!!!」

ぬ「すっ…すまん…」

零「先生…職員室に行きましようか…」

ぬ「その前に!」

零「?」

ぬ「自己紹介と行こう!俺の名前は鶴野鳴介!人呼んで地獄先生ぬ〜べ〜だ!ぬ〜べ〜と呼んでくれ!」

郷子「私は稲葉郷子!」

広「俺は立野広だ!広って呼んでくれよ!先生!」

美樹「私は細川美樹!美樹ちゃんと呼んでね?」

零「わかった…ぬ〜べ〜に郷子に広に淫乱娘だな?」

美樹「ちよつと！なんで淫乱娘なのよ！！」

零「そんな気がした…」

広「あなたが間違いじゃないから何とも言えん…」

ぬ「自己紹介が終わったところでお前らは帰れ、明日またあらためてな！」

「「「はい！零先生また明日〜！」「」」

零「おう！明日な！！」

ぬ「じゃ！行こうか！」

零「はい！」

零が赴任してきた堂守小学校は戦後にできた学校でその土地では元は墓があつたので霊的地場ができ色んなものを呼び寄せる…

だがここに地獄先生と魑魅魍魎の主がいる…

そのことを知らない妖怪たちは彷徨い…ここに来る…

だが、大きな力は時にして同じ力を持つものを呼び寄せることも
また…自然の摂理であることを二人はまだ知らなかった…

自己紹介（後書き）

六「おわった」

零「次もよろしく……」

ぬ〜べ〜「次回は…恐怖！おんぶ妖怪！」

零「ちんけなタイトルだな」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2509t/>

幻想を操る者 ~地獄先生が住む町~

2011年10月7日00時09分発行